

(様式第1号)

平成30年7月27日

認定介護福祉士認証・認定機構

理事長 大島 伸一 様

領域名：生活支援・介護過程に関する領域

科目名：認定介護福祉士としての介護実践の視点

単位数：2単位

認証申請する研修の名称：認定介護福祉士養成研修

団体名：一般社団法人三重県介護福祉士会

団体事務所の所在地：〒514-0003

三重県津市桜橋2-131 三重県社会福祉会館2階

電話：059-264-7741

FAX：059-264-7742

E-mail：mie_kaifuku@ybb.ne.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者：(一社) 三重県介護福祉士会

申請責任者：大田 京子



記

○認定介護福祉士研修認証申請書（別紙1～3）

<機構使用欄>

| | |
|-------|--|
| 受付 | |
| 確認 | |
| 委員付託 | |
| 追加連絡 | |
| 評価報告 | |
| 理事会承認 | |
| 認証番号 | |

(別紙1) 認定介護福祉士研修認証

※申請受付番号 _____

(※は記入しないでください)

認定介護福祉士研修認証申請書

| | |
|----------------------------------|--|
| 申請年月日 | 平成30年7月27日 |
| 申請団体名 | 一般社団法人 三重県介護福祉士会 |
| 申請団体代表者氏名 | 会長 大田 京子 |
| 申請責任者職名 申請責任者氏名 | 認定介護福祉士養成研修担当 森 聖志 |
| 団体住所 同 Tel・Fax メールアドレス | 〒514-0003 三重県津市桜橋 2-131 Tel : (059)-(264)-(7741) Fax : (059)-(264)-(7742) E-mail:mie_kaifuku@ybb.ne.jp |
| 申請対象の領域 | 領域名：生活支援・介護過程に関する領域 |
| 科目名 (単位数) | 科目名：認定介護福祉士としての介護実践の視点 (2単位) |
| 申請する研修名 | 認定介護福祉士養成研修 |
| 研修認証実績 | 年 認証番号 () 年 認証番号 () 年 認証番号 () |
| その他特記事項 | |

(別紙2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

| | | |
|----------------|---|---|
| 申請対象の領域 | 生活支援・介護過程に関する領域 | |
| 科目名 | 認定介護福祉士としての介護実践の視点 | |
| (1) 提供する研修について | | |
| 研修名 | 認定介護福祉士養成研修 | |
| 教育目的 | ・ 介護実践が根拠に基づいていることを理解し、自立を目指した介護実践の視点を獲得させる | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 知識を統合する科目として、根拠に基づいた介護の考え方、自立支援のための介護実践の視点を理解し、生活支援を枠組み立てることができる ・ その人らしさを支える認定介護福祉士として、医療・リハビリテーション・認知症・心理社会的支援等の各領域で学んだ知識を統合して、介護過程の展開を確認する ・ 地域生活の基盤を想定した介護実践が組み立てられる | |
| 研修内容（研修プログラム） | 含むべき内容 | 研修プログラム |
| | <ul style="list-style-type: none"> ○根拠に基づいた介護 (evidence-based care;EBC) とは ○介護の科学化（支援の根拠の明確化） ○生活支援・自立支援を実践するための介護とは <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護実践の視点 ・ 尊厳をもって対応し、その人らしく生きられるように QOL の向上を図ることであることを前提に「現在の状況への対応」「機能改善の可能性の探求」「自立に必要な介護実践の探求」「地域を生活の基盤とする」等 ○生活支援・自立支援のためのアセスメント <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価すべき基本項目、目的とする動作の確認方法、目的とする動作の獲得の可能性の判断目的とする動作ができ | <ul style="list-style-type: none"> 1. 介護における根拠と介護の科学化（講義 4 時間） <ul style="list-style-type: none"> ① 根拠に基づいた介護 (evidence-based care;EBC) ② 物語に基づいた介護 (Narrative-based care;NBC) 2. ICFモデルを活用した事例分析（講義 2 時間・演習 4 時間） <ul style="list-style-type: none"> ① 事例 1：生活支援と自立支援のアセスメント ② 事例 2：地域生活移行と継続のアセスメント ③ 事例 3：介護過程の展開（PDCA）による EBC の具体化と評価 3. 生活支援・自立支援を実践するための介護（講義 2 時間・演習 8 時間） <ul style="list-style-type: none"> ① 記録を活用した「獲得できる動作の判断と指導・連携方法」演習 ② 動画を活用した「獲得できない動作に関する支援方法の検討と提案」演習 |

| | | |
|---------------|---|--|
| | <p>ない原因の究明および対策、目標とする動作の指導と連携、獲得できない場合の対応</p> <p>○個別支援計画作成の視点の獲得</p> | <p>4. 個別支援計画作成に必要な視点（講義2時間・演習4時間）</p> <p>① 観察に必要な知識と技術</p> <p>② 動作分析に必要なアセスメント</p> <p>③ 支援計画作成に必要な視点</p> <p>5. 個別支援計画作成による職員教育及び連携の強化（講義2時間、演習2時間）</p> <p>① 記述活動がもたらす効果</p> <p>② 記述内容で捉える連携視点</p> <p>③ 本研修による教育・連携への応用</p> |
| 含むべきキーワード | EBC、介護の科学化、生活支援、自立支援、介護過程の展開（PDCA）評価、獲得できる動作の判断と指導、獲得できない動作に関する支援方法 | |
| 研修方法 | <p>■集合研修</p> <p>○集合研修講義と演習を組み合わせで行う。</p> <p>○評価は担当講師が行う。</p> | |
| 研修時間 | 30 時間 | |
| 修了要件 | <p>○原則として全課程の出席を要する。やむ得ない事情による遅刻、早退については30分を上限として認める。30分を超える遅刻、早退の場合、別途課されるレポート課題により代替することを可能とする。</p> <p>○事後課題はA～Dの4段階評価とし、D評価の場合は再提出を求める。事後課題の提出が期限内に行われないうち、修了を認めない。</p> <p>○欠席の場合は修了を認めない。</p> | |
| 講師要件（講師の選定基準） | <ul style="list-style-type: none"> ・当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験がある事 ・修士課程を修了介護福祉士であることが望ましい ・将来的に認定介護福祉士資格取得者 | |
| (2)受講者について | | |
| 受講対象（受講要件） | <ul style="list-style-type: none"> ・1類の本領域以外の全ての科目を修了していること | |
| 修了評価 | <p>○全課程の出席を要する。公共交通機関の影響、冠婚葬祭、担当する利用者の急変といったやむを得ない事情による遅刻、早退については合計30分（遅刻、早退それぞれ15分）を上限として認める。（レポート課題なし）1日のプログラムのうち、始めの30分を超える遅刻、終わりの30分を超える早退であって120分以内である場合、レポート課題による代替を可能とする。120分を超える遅刻、早退の場合は、ビデオ学習による補講を行ったうえでレポート課題を提出するものとする。</p> <p>修了評価は以下により行う。</p> <p>①出席状況が修了要件を満たしていること。</p> <p>②演習において、発言内容、他者の意見に対する対応、演習内容の</p> | |

| | |
|-------------|-------------------------------|
| | 理解力等を講師が評価し、一定以上の基準を満たしていること。 |
| (3) 研修の環境条件 | |
| 定員（講師の配置基準） | 30名 |
| 開催場所（都道府県） | 三重県社会福祉会館（三重県津市桜橋 2-131） |

(別紙3) 認定介護福祉士研修認証

認証申請する研修の実施体制等 (届出事項)

| | |
|-------------------------|---|
| (1) 研修の実施予定 | |
| 実施日 | ① 平成30年12月26日(水) |
| | ② 平成30年12月27日(木) |
| | ③ 平成30年12月28日(金) |
| 開催場所(会場) | ①②③三重県社会福祉会館3F講堂(三重県津市) |
| | |
| | |
| (2) 講師 | |
| 担当、氏名及び略歴 | 担当する講義等 ・担当する講義等 「認定介護福祉士としての介護実践の視点」 ・保有資格 介護福祉士、介護支援専門員、認知症ケア学会認定認知症ケア専門士、社会福祉主事任用資格 介護教員講習会修了資格、介護技術講習会主任指導者資格、福祉経営学士、修士(社会福祉学)、博士(社会福祉学) |
| | 1998年4月医療法人米津会介護老人保健施設職員、介護福祉士として介護業務担当 2000年12月同法人グループホームつるしろ職員、介護福祉士として介護業務担当 2001年6月同法人グループホームつるしろ施設長、同法人グループホームよねづ統括主任 任、管理者、介護支援専門員として運営管理業務担当 2005年4月学校法人日本福祉大学高浜専門学校介護福祉学科専任教員、同法人日本福祉大 中央福祉専門学校介護福祉士科兼任講師 2009年4月静岡県公立大学法人静岡県立大学短期大学部社会福祉学科 助教 2009年4月学校法人日本福祉大学日本福祉大学健康科学部リハビリテーション学科非常勤講師(現在に至る) 2011年4月静岡県公立大学法人静岡県立大学短期大学部社会福祉学科 講師 2017年4月静岡県公立大学法人静岡県立大学短期大学部社会福祉学科 准教授(現在に至る) |
| (3) 実施体制 | |
| 研修の企画運営の組織 (担当部局・人員) | 認定介護福祉士養成研修実行委員会(常勤:1名、非常勤:4名) 実行委員会事務局(担当事務局員、介護福祉士会事務兼務、常勤2名) 研修実行委員会において各科目の教育目的や到達目標を確認し、担当講師と科目間の連関や留意点について共有する。 またできる限り研修実行委委員会の委員が研修に参加・見 |

| | |
|--------------------|--|
| | 学し、研修内容を評価するとともに、随時研修の見直しを 図る。 |
| 研修の企画運営に関する諸 規程 | 三重県介護福祉士会の定款、生涯研修委員会の諸規程に準 ずる。 |
| 研修管理責任者職名 | |
| 研修管理責任者氏名 | 会長 大田 京子 |
| 機構問合せ先部署 | 一般社団法人三重県介護福祉士会 事務局 |
| 機構問合せ先担当者氏名 | 森 聖志 |
| 機構問合せ先電話番号/FAX | 059-264-7741 / 059-264-7742 |
| 機構問合せ先 e-mail アドレス | mie_kaifuku@ybb.ne.jp |
| 受講問合せ先部署 | 一般社団法人三重県介護福祉士会 事務局 |
| 受講問合せ先担当者氏名 | 森 聖志 |
| 受講問合せ先電話番号/FAX | 059-264-7741 / 059-264-7742 |
| 受講問合せ先 e-mail アドレス | mie_kaifuku@ybb.ne.jp |
| (4) 研修履歴の管理体制 | |
| 受講者への付与単位部門 | 三重県介護福祉士会事務局 |
| 受講履歴の管理方法 | ○紙媒体及びデータによる台帳管理 ○データ保存期間は最低 10 年間とし、その後は、紙媒体で 保管する。 ○個人情報の取り扱いにおいては、法律を遵守する。 |
| 受講履歴の証明 | 各科目を修了した時点でその科目の修了証明書を発行し、 全課程を修了したのものには、全課程を修了した証明書を発 行する。 |
| 管理責任者氏名 | 大田京子（会長） |
| 管理担当者氏名 | 稲木千泰（三重県介護福祉士会 事務局兼務） |

別紙 1

認定介護福祉士養成研修時間割表

領域：生活支援・介護過程に関する領域

科目名：認定介護福祉士としての介護の実践の視点

(1日目)平成30年12月26日

| 区分 | 科目名 | 時間 | 内容 |
|-----|---|-------------|---|
| | 受付 | 8:30~9:00 | |
| 1・2 | ○根拠に基づいた介護 (evidence-based care;EBC)とは ○介護の科学化(支援の根拠の明確化) | 9:00~12:00 | 1. 介護における根拠と介護の科学化(講義) ① 根拠に基づいた介護(evidence-based care;EBC) ② 物語に基づいた介護(Narrative-based care;NBC) |
| | 休憩 | 12:00~13:00 | |
| 3 | ○生活支援・自立支援を実践するための介護とは ・介護実践の視点 尊厳をもって対応し、その人らしく生きられるようにQOLの向上を図ることであることを前提に「現在の状況への対応」「機能改善の可能性の探求」「自立に必要な介護実践の探求」「地域を生活の基盤とする」等 | 13:00~17:30 | 2. ICFモデルを活用した事例分析(講義・演習) ① 事例1:生活支援と自立支援のアセスメント ② 事例2:地域生活移行と継続のアセスメント ③ 事例3:介護過程の展開(PDCA)によるEBCの具体化と評価 |

(2日目) 平成30年12月27日

| 区分 | 科目名 | 時間 | 内容 |
|-----|--|-------------------------|--|
| | 受付 | 8:30~9:00 | |
| 1・2 | ○生活支援・自立支援のためのアセスメント 評価すべき基本項目、目的とする動作の確認方法、目的とする動作の獲得の可能性の判断目的とする動作ができない原因の究明および対策、目標とする動作の指導と連携、獲得できない場合の対応 | 9:00~12:00 (途中10分休憩) | (講義と演習) 3. 生活支援・自立支援を実践するための介護(講義・演習) ① 記録を活用した「獲得できる動作の判断と指導・連携方法」演習 ② 動画を活用した「獲得できない動作に関する支援方法の検討と提案」演習 |
| | 休憩 | 12:00~13:00 | |
| 3 | | 13:00~17:30 | 午前の続き |

(3日目) 平成30年12月28日

| 区分 | 科目名 | 時間 | 内容 |
|-----|-----------------|-------------------------|--|
| | 受付 | 8:30~9:00 | |
| 1・2 | ○個別支援計画作成の視点の獲得 | 9:00~12:00 (途中10分休憩) | 4. 個別支援計画作成に必要な視点(講義・演習) ① 観察に必要な知識と技術 ② 動作分析に必要なアセスメント ③ 支援計画作成に必要な視点 |
| | 休憩 | 12:00~13:00 | |
| 3 | ○個別支援計画作成の視点の獲得 | 13:00~17:30 | 5. 個別支援計画作成による職員教育及び連携の強化(講義・演習) ① 記述活動がもたらす効果 ② 記述内容で捉える連携視点 ③ 本研修による教育・連携への応用 |